

話 題

BBC モニタリング訪問記

渡邊正晃

その「機関」は、ロンドンから急行列車で30分余りのところにあるレディングという駅から、さらに10分ほどタクシーを走らせたところにあった。町はずれの広大な敷地の中にある英国風の建物は、周囲の緑と調和して威圧感こそないが、やはり貫禄十分といった風格がある(写真)。

BBC モニタリング……と言っても、日本では知る人が少ないのではなかろうか。英国の公共放送であるBBCには、国内向けのテレビ・ラジオ放送を行なっているBBC ホーム・サービス、海外向けの短波放送を行なっているBBC ワールド・サービスの他に、世界中のテレビ・ラジオを視聴し、新聞を入手し、多種多様な言語で話され、書かれているそれらの内容を英語に翻訳して、配信するという……聞いただけで気の遠くなるような作業を日々営々と繰り返している部門 BBC モニタリング がある。

案内役のG氏によれば、1939年、つまり第二次世界大戦勃発の年に設立されたこの機関は、戦時下の1943年にロンドンから現在の場所に移ってきたそうである。ドイツ軍の空襲を避けながら、枢軸国側のラジオ、新聞を翻訳していたのであろう。その後、東西冷戦期に入ると、ソビエト、東欧圏のメディアの分析に重点を置くようになったが、興味深いことに、冷戦終了後は仕事の中心をアラビア語メディア(!)に移したそうである。確かに一見したところ、モニタリング機材が並ぶフロアの7~8割は、アラビア語メディア担当のスタッフによって占められており、さらに、現在の情勢を反映して、彼らの多くがイラク関係の仕事に張り付いているようであった。

BBC モニタリングの活動は、英外務省からの交付金に大きく依存しており、毎日発行されるイラク報道サマリーは、首相府、外務省、国防省、BBC ワールド・サービスといった英国の政府・公共機関によって利用されている。しかし、情報源はすべて公開されているメディアの報道であるため、購読料さえ払えば誰でも利用することが可能である。税金に依存しない自立的経営に向けた努力は何処も同じなのであろう、案内役のG氏が最後に引き合わせた営業担当の若い女性は、デイリー・レポートの質の高さを強調しつつ、売り込みを図ること頻りであった。

